

『能登半島地震起きる』

元日の夕方4時、能登半島地震が起きました。この地震で亡くなった方、今なお苦しんでみえる被災地の皆さんに衷心よりお見舞い申し上げます。それにしても、引き続いて起きた津波や火災、余震（群発の地震）、降雨や降雪により、被害が拡大しています。改めて地震の爪痕の大きさを思い知らされました。私は五年前に輪島市にある時国家を訪ね、能登半島を一周しました。名古屋から金沢までサンダーボードで、能登半島へはレンタカーで行きました。金沢からけっこう遠いことに驚きました。キリコ会館にある輪島伝統の祭り用キリコが多数倒れたそうです。また江戸時代、日本海を代表する網元であり、国の重要文化財である上時国家も茅葺屋根が落ち、一階が潰れたと聞きました。千里ヶ浜なぎさドライブウェイも通行止めとなり、棚田も地面に亀裂が入ったと言います。一日も早い能登半島の復旧・復興を心から願っています。

津島市には『家庭防災の日』があります。毎月第三日曜日、防災に対する意識を高め、防災に備えるモチベーションを高めることを狙っています。ちなみに一月は火災予防で「火の不始末や地震等の火災に備えて、消火器や消火用バケツなどの用具を点検し、火の元には十分気をつけましょう」、学級指導として「火災訓練で、簡単な消火活動を行う。抜き打ち避難訓練（水消火器訓練）を行う」という学習目標となっています。子どもたちは朝礼やS T、避難訓練を通じて防災や減災について学びます。このことが一月の教育委員会の懇話会でも話題となりました。「災害をどうすれば自分事にできるか」「避難所体験（避難所ゲームも含めて）が必要でないか」「バリエーション（様々な）のある防災訓練のあり方は」について話し合っていました。

26日（金）に市文化会館で人権講演会の講師を務めました。150人を超える皆さんに来て頂きました。学校を取り巻く差別の歴史（人権の歴史）について話しました。「部落差別」「外国人差別」「障がい者差別」「少数民族（アイヌ）差別」「いじめ・児童虐待」について、差別がどのように生まれ、どうして続いているのかについて説明しました。「正しい知識を身に付け、正しいと思ったことを行動しよう」と呼び掛けました。そのため今後の人権学習のあり方について提案させていただきました。

初霜やベンチの上の赤マフラー

令和6年2月2日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視